

覚王寺便り

7月(第517)号

平成29年7月1日発行

〒001-0045 札幌市北区麻生町5丁目2-12 TEL(011)716-7917

覚王寺ホームページは「札幌 覚王寺」で検索

常例法座にお参りしましょう

覚王寺では、毎月1日の午後1時から2時40分まで「常例法座(じょうれいほうざ)」を勤めています(8月1日はお休み)。皆さんで「正信偈」をおつとめし、全国各地からいらっしゃる布教使さんによるご法話をききます。

常例法座は、どなたでもお参りいただける法要です。法要の前後や休憩時間には皆さんでお茶を飲んだりお菓子を食べたりしながら談話を楽しみ、明るく和やかな雰囲気の中勤められています。

お一人でお参りにきている方も多くいらっしゃいますので、一人だと不安…と思っている方もどうぞ安心してお参りください。もちろん、ご家族、ご友人とのお参りも大歓迎です。ぜひ一度、常例法座にお参りしてみませんか!?

(※お寺まで地下鉄をご利用の方は南北線麻生駅3番出口より徒歩2分です。駐車場もございますのでご利用ください)

～ 常例法座にお参りされている方々にお聞きしました ～



若林 ミツ子 さん

毎月、常例法座にお参りして、お話をきかせていただくことは、たいへんありがたいことです。お寺で皆さんとお会いしてお話をするのが、私にとって何よりの楽しみです。

初めて常例法座にお参りしたとき、お寺が尊い場所なのだと改めて感じ、その雰囲気を味わいながら、み教えに触れることができました。お寺にお参りされる皆さんが仏さまのみ教えをととても大切にされていることが分かりました。



門崎 幹雄 さん



有田 美恵子 さん

私たちはお寺に来たくても来られない方もいるなかで、恵まれてお話をきかせていただいています。お寺に来たことのない方にも、一人でも多くの方々にお参りに来ていただきたいと思います。

毎日、自宅で「正信偈」をおつとめしていますが、お寺で皆さんと一緒におつとめするのは、清々しく格別な思いがします。お寺で皆さんとお会いしてお話するのは、良いことですね。たくさんの方にお寺に来ていただきたいです。



三國 照学 さん

7月法要行事予定

7月 1日(土) 午後 1時 常例法座
7月 11日(火) 午後 2時 お寺でペン習字
7月 12日(水) 12時半 おつとめの練習会
7月 13日(木) 午後 2時 お寺でヨガ
7月 19日(水) 午前 10時 お寺で絵手紙
7月 24日(月) 午前 9時 趣味の会
7月 25日(火) 午後 2時 お寺でペン習字
7月 27日(木) 午後 2時 お寺でヨガ

8月法要行事予定

8月 16日(水) 午後 1時 盂蘭盆会法要
8月 22日(火) 午後 2時 お寺でペン習字
8月 23日(水) 午前 10時 お寺で絵手紙
8月 24日(木) 午後 2時 お寺でヨガ
8月 28日(月) 午前 9時 趣味の会

※8月の常例法座・おつとめの練習会はお休みです。

★ 立川こしら落語会 in 覚王寺 ★

7月30日(日)、覚王寺で「立川こしら落語会」を開催します。出演の立川こしら師匠は、1996年に立川志らく師匠に弟子入り、2012年に真打昇進。落語以外の活動も積極的に行っています。ぜひお越しください!

7月30日(日) 開場:午後2時30分 開演:午後3時 会場:覚王寺 料金:お気持ちで結構です

*裏面もあります

お盆は大切な仏教行事 どうぞお寺にお参りください

お盆ってなに？

今年もお盆の時期が近づいてまいりました。お盆は、私たち日本人にとって風習のひとつになっていますが、そもそもお盆とは、盂蘭盆会（うらぼんえ）という仏教行事で、仏弟子の目連尊者（もくれんそんじゃ）が餓鬼道（がきどう）に堕ちた亡き母を救おうとして、その母に食物を与えるが救われず、お釈迦さまの導きで衆僧に供養して初めて救われた、という故事から起こった行事です。

浄土真宗のお盆

ご先祖への感謝とともに、仏法を聞かせていただき、阿弥陀さまのお力によって救われていく身の幸せを喜ぶのが浄土真宗のお盆です。

盂蘭盆会法要

覚王寺では、八月十六日・午後一時～午後二時四十分、お盆の法要「盂蘭盆会（うらぼんえ）法要」を勤めます。ご先祖への感謝とともに、ご家族皆様さんでお寺にお参りして、仏法を聞くことの大切さをあらためて思い出させていただきますよ。

お盆期間中の納骨堂読経

お盆期間中、納骨堂での読経を受け付けています。受付の日は次の通りです。

八月十三日～十五日・午前八時～午後六時
八月十六日・午前八時～正午

また、八月十七日の午前八時から午後三時までの間、納骨堂清掃のためお参りできません。ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

仏教語を学ぶ ― 第四回「命濁」 ―

今回は、前回に続き『仏説阿弥陀経』から、「命濁（みょうじよく）」という言葉について学びましょう。このようなお話があります。

「さあ皆さん、お手手をあわせて『いただきます』っていいでしょう」と幼稚園の若い先生がいう。すると太郎というませた園児が聞く。

「先生、なぜ『いただきます』っていうんですか」

さあ困ったのは先生。習慣で言ってきただけ。ちらっと横を見た時大ヒントを発見。

「あのね、むこうの給食のおばさんたちにお礼をいうんですよ」

「でもね先生、この間うちのママ、給食費を六千円もってきたよ」この言葉に先生はノックアウト。そこへ園長先生（住職）が助け船。

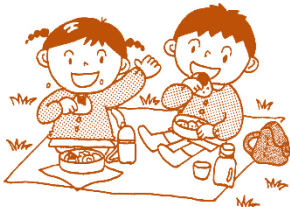
「太郎君、ママはお金払ってないよ」

さあ怒ったのは太郎君。涙をながして払ったという。

「じゃあね、太郎君の前のお魚にお母さんはいくら払った？」

「……？」

「太郎君には分からないでしょう。でもね、そのお魚は一円もお金をもらってないの。ママが払ったお金はみんな人間がとったの。お魚はただで自分のいのちを差し出して『さあ、太郎君、ぼくのいのちを食べて大きくなってちょうだい』って言っているんだよ。その尊いいのちを『いただきます』って言うのだよ（『阿弥陀経を味わう』より）」



「命濁」とは、いのちが軽んじられる時代のことです。自分のいのちはもちろん、他のいのちをも大切にしない事件が多発する現代社会は、まさにそのような時代になってしまい、大きな危機に瀕しているのかもしれない。

ご紹介したお話のように、食べるということでは、多くの尊いいのちをいただくということです。たくさんいのちを支えられて生きているということをお忘れはいけませんね。

あなたの思いを言葉に

風しずか

種子まく背ナに

日の暖み

ご投稿いただき、ありがとうございます！
まだまだ募集中です！

今月のひとこと

早いもので、結婚式を挙げてから一年が経ちました。おかげさまで、夫婦仲良く過しています。そのかすがいとなってくれているのが、愛犬の「ごま」です。いま一歳半で毎日元気いっぱい飛び跳ねています。お寺にいらした際には、「ごま」にもぜひ会っていただくさいね！
(副住職)

